

4. 新技術の導入

新技術①: 牧養力維持と放牧期間延長技術

耕作放棄地放牧における家畜生産上の課題！

- ・ 放牧利用の継続に伴う既存植生の衰退
- ・ 放牧期間が6月頃～10月頃に限られる

牧養力の維持・向上のための

表面追播による簡易牧草導入技術

低コスト・省力化のための

秋冬季放牧に適した飼料用ムギ類等を導入した放牧期間延長

耕作放棄地放牧
(6月頃～10月頃)

放牧期間延長
(11月頃～1月頃)

放牧を続けていたら、植生(野草)が衰退し、エサが無くなった

耕作放棄地の地形が悪くて、農機が入れない



表面追播による簡易牧草導入技術



ストリップグレージング

飼料用ムギ類等による放牧期間延長

新技術②: 自動飲水供給システムによる飲水管理の省力化

太陽光発電を活用し、直流電源駆動のポンプを利用して飲水を供給。電気牧柵との併用も可能！

飲水自動供給システムの導入

電気牧柵システム



揚水ポンプシステム

水運搬・給水作業からの解放



放牧面積の拡大に寄与

5. 放牧を行って気づいたこと

- ・軽労化、低コスト化、規模拡大には、放牧の導入がベストである。
（町役場の助言、支援もあり、耕作放棄地を利用）
- ・放牧継続のためには既存植生の衰退をカバーすること。
（飼料用ムギ等の播種）
- ・放牧場所の設定には、周辺農地、住宅等への配慮が必要である。
- ・個人による農地の権利調整は、困難な場合がある。
- ・長期に渡って安定的に土地が使えることが望ましい。
- ・地域で将来の土地利用について合意形成が得られていると、今後の経営方針が立てやすい。
- ・放牧を導入・継続していくためには、地権者や地域の人々の理解が不可欠である。

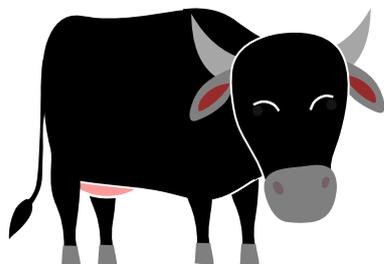
6. 将来のビジョン

(1) 放牧頭数の増加

- ・廃用牛を放牧してから出荷する。
- ・放牧地で子牛の出産と育成を行う。

(2) 放牧面積の拡大

- ・下河原地区には活用していない耕作放棄地が残されており、農地中間管理機構等を通じて、放牧地化を図りたい。
- ・休耕田と里山をつないだ林間放牧を行う。



任せて！

耕作放棄地は
牛さんに頼もう



7. おわりに

～土地とウシのほかに大事なものがある～

放牧を導入・継続していくためには、地権者や地域の人々の理解が不可欠であり、日常的に良好な関係を築く努力が必要である。

毎年、1月に下河原地区の一画で実施される小正月行事「どんど焼き」に参加・協力することにより、地域の人たちとの絆ができ、放牧への理解と協力関係が得られた。



※2020年は中止



※「どんど焼き」:竹、萱などで作ったやぐらの中に門松などを入れ、火をつけ燃やす伝統行事。

8. 参考資料(2019年10月12～13日台風19号による被災)

- ・下河原地区全体が一時浸水し、放牧牛23頭が流された。後に17頭救助される。
- ・草地約5haのうち、約2/3が土砂に埋まる。
- ・施設の多くが全壊する。



親子放牧施設



(元)親子放牧施設



庇陰木



庇陰木 (流木、流竹が引かかる)

2019 10/13被災(農研機構 中尾氏 現地入り)

2019 10/14～流された牛の救助活動(JAや地域の関係者、福島県放牧農家、農研機構 山本氏ら 協力)



台風で崩れた堤防



流されて川岸で見つかった牛を捕まえたところ



足元が悪い中、川岸から牛を牛舎へ戻すところ



木に引っかかった流木類より
約3m 程度水に浸かったと推察

茂木の家 **流された牛 戻る奇跡**

「もう駄目だ。かわいそうなことをした。茂木町小井戸、畜産業瀬尾亮さん(65)は13日午前5時半ごろ、肉牛23頭を放していた茂木町河井の約5畝の放牧場が濁流に沈むのを見て立ち尽くした。牛の姿はどこにもない。しかし午前9時ごろから、落胆した瀬尾さんの元に「牛が流れ着いた」「鳴き声がする」などという情報が次々に入ってきた。

JAはが野の職員や畜産仲間ら6人で探し、隣町の茨城県常陸大宮市でまず生

「もう駄目だ。かわいそうなことをした。茂木町小井戸、畜産業瀬尾亮さん(65)は13日午前5時半ごろ、肉牛23頭を放していた茂木町河井の約5畝の放牧場が濁流に沈むのを見て立ち尽くした。牛の姿はどこにもない。しかし午前9時ごろから、落胆した瀬尾さんの元に「牛が流れ着いた」「鳴き声がする」などという情報が次々に入ってきた。

JAはが野の職員や畜産仲間ら6人で探し、隣町の茨城県常陸大宮市でまず生

台風19号が本県を直撃して26日2週間。未曾有の増水で甚大な被害を受けた茂木町の那珂川沿いでは、最大約30cmも下流に流された肉牛が保護されるなど朗報が届く一方、廃業を覚悟した酪農家もある。流れた牛の一部を取り戻した畜産業の男性は「備えが甘かった」と悔やみ、喜ぶ間もなく不明の牛探しを続ける。被災者は傷つきながらも生活再建に向け踏み出そうとしている。(飯塚博)

機材など浸水、廃業覚悟も

台風19号

2019 10/27
下野新聞より

2019 11/12 救助できた17頭の牛の飼養場所が問題となり、比較的被害の少なかったF牧区を利用できるように施設と牧柵を復旧(流木(竹類)と土砂を取り除く)

・F牧区 被災直後の状況



2019 10/17撮影



2019 10/14撮影



2019 10/14撮影

・F牧区施設 復旧作業



土砂の搬出



流竹・流木の取り外しと搬出



絡みついた流竹類を手作業で取り除く



復旧

2020 2/26宇都宮大学ボランティアの方の協力を得て電気牧柵張り



宇大の学生と電牧を張る



流失した牧柵の杭を打つ



修復された電気牧柵

放牧の再開



放牧再開時の風景

2020 5/13



放牧頭数も増加

2020 6/2